FAITHFUL MEN · A LIBRARY OF CHRISTIAN CLASSICS

最後の行き先

Final Destiny

あなたは永遠をどこで過ごしますか？

ウィリアム・マクドナルド William MacDonald

英語の原文から日本語に翻訳

Faithful Men

PlymouthBrethren.org · KEE Philippine Missions

英語の原題：*Final Destiny*（ウィリアム・マクドナルド著）。日本語訳：KEE Philippine Missions、2026年。聖書のことばは、この小冊子の英語本文から、わかりやすい現代の日本語に訳しました。聖書の箇所はすべて NET Bible（netbible.org）にリンクしています。

Faithful Men（PlymouthBrethren.org と KEE Philippine Missions）。どなたでも自由に読み、分かち合ってください。販売はできません。

「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」（テモテへの手紙第二 2:2）

最後の行き先

あなたは永遠をどこで過ごしますか？

考える人なら誰でも、遅かれ早かれ「自分は死んだらどこへ行くのだろう。永遠をどこで過ごすのだろう」と思うものです。少しの時間、これを読んでみてください。その答えが見つかります。

あなたは何を拠り所にしていますか？

人生で一番大切な問いの答えを探すとき、私たちには拠り所となる権威が必要です。その選択肢は、結局二つにしぼられます。人の意見か、それとも神のことばか。人がこう思うということか、それとも神がこう言われるということか、です。

いのちにかかわる、いつまでも変わらない大切な事がらについては、決して間違うことのない権威でなければなりません。誤りの入る余地があってはならないのです。人の意見では、とても足りません。人の顔がそれぞれ違うように、人の意見もそれぞれ違うからです。

決して誤ることがないのは、聖書、すなわち神のことばだけです。それは真理です（ヨハネの福音書 17:17）。でも、どうしてそう言えるのでしょうか。

- 実現した預言によって分かります。キリストお一人についてだけでも、六十を超える預言があり、主がこの地上におられたときにそのとおりになりました。そのほかにも、イスラエルや異邦の国々についての何百もの預言が実現しています。

これがすべて偶然に起こる確率は、考えるに値しないほど小さいのです。

- 少なくとも四十人の人が、違う国で、違う時代に、三つの違う言語で、千六百年にわたってこの聖なることばを書きました。彼らには互いに打ち合わせる手だてがありませんでした。それなのに、聖書には一つにまとまったテーマがあります。一貫した一つの物語を語っているのです。これほど見事な設計を誇れる本がほかにあるでしょうか。
- 聖書には、人の生き方を罪と恥から、品位と誠実へと造り変える、ほかにはない力があります。
- 聖書のことばは、どの時代にもあてはまります。毎時のニュースのように、いつも今の私たちに語りかけます。
- 聖書はすべての人の心に届きます。あらゆる人種、言語、部族、国民の人々に語りかけます。
- 聖書は汲み尽くすことができません。終わりのない学び、慰め、導きを与えてくれます。
- 神のことばがきっかけとなって生まれた書物を考えてみてください。聖書辞典、注解書、コンコルダンス、詩、説教。聖書は奴隷制度の廃止、公民権、社会正義といった大きな運動を生み出し、病院、学校、孤児院、貧しい人や高齢者のための施設、そして貧困や飢えをやわらげる世界的な団体を生み出しました。聖書は、伝わっていったところでどこでも、人の社会に良い影響を与えてきました。
- 聖書はきよい本です。罪をあらわにし、罪について警告します。流行の文化に合わせて身を低めることはせず、かえって

それを引き上げようとします。

- 聖書は生きている本です。それを本気で恐れる人もいれば、そのために命をささげる人もいます。
- 聖書は、自分は神の霊感によるものだと言っています（テモテへの手紙第二 3:16）。つまり、そのことばは神のことばだということです。もしそうでないなら、聖書はいかさまです。けれども、聖書の敵でさえ、聖書をでっちあげだとは言いません。
- 聖書は、焼き捨てよう、追い出そうとする何世紀にもわたる試みに耐えてきました。それでも生き残ったのです。国が聖書を禁じると、投獄や死の危険をおかしてまで、それを密かに運ぶ人たちがいます。
- 語りかける言語の数でも、読んだ人の数でも、神のことばに並ぶ本はほかにありません。
- この驚くべき本は、完全なお方の生涯を記しています。ただの人間に、そのような記録が書けるはずはありません。フランスの懐疑論者ルナンは、「キリストを作り出すには、キリストが必要だろう」と言いました。

世々の文学の中で、聖書は並ぶもののない、ただ一つの本です。自分の人生で聖書の造り変える力を体験した人は、それが生ける神のことばであることを否定しないでしょう。ある人が言ったように、その力を身に感じた人は、その源を否定しないものです。

聖書を私たちの最終的な拠り所として受け入れることに、何の危険もありません。

聖書は私たちの行き先について何と言っていますか？

では、聖書が死と死後の世界について何と言っているか、考えてみましょう。

聖書は、死は確かにやって来ると言っています。人間には、一度死ぬことが定まっています（ヘブル人への手紙 9:27）。だれがこれに反論できるでしょうか。

どの墓地も、どの葬儀場も、黙ってこの事実をあかししています。世代は来ては去っていきます。「だれもが自分は永遠に生きると思っている。そしてやがて、その人がいなくなった顔になる」（ウィル・ホートン）。死から逃れることはできません。

聖書は、人は死なければならないと言うだけではありません。今引用した同じ節で、**そのあとにさばきを受ける**と付け加えています。「そのあとに」ということばに注意してください。死は終わりではありません。死後の世界があるのです。死のあとにはさばきがあり、神に会う備えのできていない人には、終わりのない苦しみの永遠があります。聖書は、**いのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた**と言っています（ヨハネの黙示録 20:15）。

聖書はまた、人が永遠を過ごす場所は二つしかないと教えています。天国か地獄かです。偽ることのない神は、人類の行き先としてこの二つだけを語っておられます。それを信じないことを選ぶ人もいるでしょう。けれども、だからといって事実は変わりません。

だれもがいつか死に、天国か地獄で永遠を過ごすのですから、人生で一番大切なことは、自分の永遠の住所が天国だと知っていることです。

それを知ることはできますか？ できるなら、どうやって？

はい、はっきりと確信することができます。

神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです（ヨハネの手紙第一 5:13）。

でも、まず悪い知らせから

永遠のいのちを得る方法の話に入る前に、罪について話さなければなりません。罪ということばは何を意味するのでしょうか。そして、なぜそれが大切なのでしょうか。

罪とは、神の完全さに届かないすべてのものです（ローマ人への手紙 3:23）。的をはずすという意味です。

罪とは、悪いことをすることだけではありません。正しいと分かっていることをしないことも罪です（ヤコブの手紙 4:17）。これを「怠りの罪」と言います。罪とは不法、つまり神のみこころを行うことをかたくなに拒むことです（ヨハネの手紙第一 3:4）。何かをすることに良心がとがめているのに、それでもやってしまうなら、それは罪です（ローマ人への手紙 14:23）。そして、すべての不義は罪です（ヨハネの手紙第一 5:17）。

聖書は、すべての人が罪を犯したと、はっきりと強く語っています。

すべての人は罪を犯して、神の栄光に届かなくなっていますと言っています（ローマ人への手紙 3:23）。また、**この地上には、善を行い、罪を犯さない正しい人はひとりもいない**とも言っています（伝道者の書 7:20）。

あなたがこの例外かどうか、ちょっとテストをしてみましょう。次のリストを確かめてください。

まず、人々が「重い罪」と呼ぶものから始めます。不品行、姦淫、近親相姦、同性愛の行為、獣姦、殺人、偶像礼拝。多くの人は、自分はどれにもあてはまらないと言うでしょう。（でも、それは、イエスさまが「情欲をいだいて女を見る者は、すでに姦淫を犯したのだ」と言われ（マタイの福音書 5:28）、人を憎む者は人殺しなのだと言われたこと（マタイの福音書 5:22）を思い出すまでの話です。）

次に進みましょう。酒に酔うこと、薬物中毒、中絶、子どもへの虐待、残酷さ、まじない、ののしりのことば、ポルノへの依存。あなたはまだ、自分はまったく潔白だと言えますか。

もしそうなら、次を確かめてください。むさぼり、情欲、ねたみ、嫉妬、憎しみ、高慢、自己中心、うわさ話、うそ、ごまかし、親への不敬、約束を破ること、不誠実。あなたは右手を上げて、これらのどれ一つ犯したことがないと誓って証言できますか。もしできるなら、もう一つだけ確かめてください。心の中で思うことは、きよいですか。

恐ろしい事実は、私たちは一度だけ罪を犯した罪人ではなく、いつも罪を犯している罪人だということです。私たちは毎日、思いとことばと行いで罪を犯しています。これを否定するなら、自分を欺いているのであり（ヨハネの手紙第一 1:8）、神を偽り者とすることになります（ヨハネの手紙第一 1:10）。

私たちはみな堕落しています。つまり、まったく罪に満ちているのです。すべての罪を実際に犯したわけではないかもしれませんが、それをする力は持っています。そして罪は、私たちのあらゆる部分に及んでいます（ローマ人への手紙 3:13-18）。私たちが何者であるかは、これまでにしたどんなことよりも、ずっと悪いのです（エレミヤ書 17:9）。

罪が赦されていないかぎり、罪人はだれも天国に入ることはできません（ヨハネの黙示録 21:27）。一つでも罪を犯したなら、あなたは罪人です。そして有罪の罪人として、救われる必要があるのです。

神のジレンマ

けれども、問題があります。神は聖なるお方です（レビ記 19:2）。神はいつも正しく、ふさわしいことをなさらなければなりません。神は罪を許容することも（ハバクク書 1:12-13）、罪と妥協することも、見過ごすことも、見て見ぬふりをすることもできません。神のことばははっきりと、**罪を犯した者は死ぬ**と言っています（エゼキエル書 18:4）。神の律法は、罪人の死を求めます。負債は支払われなければなりません。罪の刑罰は受けなければならないのです。

けれども、もし私たちが自分の罪の刑罰を受けるなら、私たちは永遠に滅び、さばかれてしまいます。

神のジレンマはこうです。神は罪人を愛しておられます（ヨハネの福音書 3:16）。神はだれひとり滅びることを望んでおられません（エゼキエル書 18:32、ペテロの手紙第二 3:9）。その人が天国で神とともに永遠を過ごすことを望んでおられます。神は地獄を人間のために造られたのではなく、悪魔とその使いたちのために造られました（マタイの福音書 25:41）。けれども、罪の中にいるまま、つまり罪がまだ赦されていないままの人を、天国に入れることはおできになりません。きよくないもの、間違ったもの、悪いものは、決してそこに入ることはできないのです（ヨハネの黙示録 21:27）。では、神はどうやってご自分の愛を満たしながら、正しいお方でいられるのでしょうか。どうやって罪人を救いながら、聖なるお方でいられるのでしょうか。

望みのない者に望みがある

状況は望みのないものではありません。神は、ご自分の正しさを曲げることなく、私たちの罪を赦すことのできる道を見つけてくださいました（ローマ人への手紙 3:26）。

神は二千年前、愛する御子をこの地上に遣わして、**失われた人を捜して救う**ようにされました（ルカの福音書 19:10）。主イエス・キリストは、私たちの身代わりとして死ぬために、カルバリの十字架へ行かれました。

これが鍵となることばです。身代わり。主は私たちの代わりに死なれました（ガラテヤ人への手紙 2:20）。私たちが死ぬべきだった死を死んでくださいました（コリント人への手紙第一 15:3）。私たちの罪のために私たちが負っていた負債を支払ってくださいました。私たちが受けるべきだった刑罰を受けてくださったのです（ペテロの手紙第一 2:24、ペテロの手紙第一 3:18）。

だれかが私のために死んでくださった、しかもそのお方は、ほかでもない私たちの創造主なる神だった。そのことが分かるまで、私たちは福音を本当に理解したことにはなりません（ヨハネの福音書 1:1,3）。羊が羊飼いのために死ぬのではなく、羊飼いが羊のために死なれたのです。造られた者が造り主のために死ぬのではなく、造り主がご自分の造られた者たちのために死なれたのです。

でも、身代わりとしてのキリストのみわざを、父なる神が満足して受け入れられたと、どうして分かるのでしょうか。神が主イエスを三日目に死者の中からよみがえらせたので、それが分かるのです（ローマ人への手紙 4:25、ローマ人への手紙 6:4、コリント人への手紙第一 15:4）。これは、キリストが私たちの救いに必要なみわざを成し遂げ、神がそれを受け入れられたという、確かな証拠でした。もし神が主をよみがえらせなかったなら、主の死はほかのだれの死とも変わらなかったでしょう。イエスさまは、もう二度と死ぬことのない栄光のからだで死者の中からよみがえった、最初のお方です。

ここで、もう一つの疑問が生まれます。キリストがすべての人のために死なれたのなら、すべての人が救われるのが筋ではな

いでしょうか。いいえ、そうではありません。十字架での主のみわざは、すべての人を救うのに十分です。けれども、それが実際に効力を持つのは、主を自分の身代わりとして受け入れる人だけです。神は、天国に行きたくない人を天国に連れて行くことはなさいません。罪を犯し続けている人々で天国をいっぱいにすることはおできになりません。もし世界で最悪の変質者、人殺し、ギャングが住んでいたら、それはどんな天国でしょうか。

救われない道

確かに天国に行ける神の道の話に入る前に、多くの人が頼りにしている、いろいろな間違った道について考えてみましょう。

ほとんどの人は、救いは良い行いによるのだと思っています。精いっぱい努力すること、良い生き方をすること、良い心がけを持つことで救われる、と。これは、ほとんどの宗教が教え、世界のほとんどの人が信じていることです。聖書は、この道は人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりは死と滅びだと言っています（箴言 14:12）。これは天国への道ではありません。救いは、どんな種類の手柄によるものでもありません。

聖書は、**私たちの義はみな、汚れた着物のようだ**と言っています（イザヤ書 64:6）。「私たちの罪はみな」とは言っていません。汚れた着物のようなのは、私たちの良い行いのほうなのです。聖書はまた、**神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって私たちを救ってくださった**と言っています（テトスへの手紙 3:5）。救いは**行いによるので**

はありません。だれも誇ることのないためですと、はっきり言っています（エペソ人への手紙 2:9）。

救いは、洗礼によるのでも、教会員になることによるのでも、献金によるのでも、宗教的な儀式によるのでもありません。もし救いがこうした行いによるのなら、キリストの死は必要なかったことになります。もしほかに道があったなら、主は無駄に命を捨てたことになるのです（ガラテヤ人への手紙 2:21）。それに、もし良い行いが救いの道なら、だれも自分が救われていると知ることはできません。十分な良い行いをしたのか、正しい種類の行いをしたのか、決して分からないからです。

マーク・トウェインはこう言いました。「もし救いが善人であることによるなら、あなたの犬は天国に入り、あなたは外にとどまることになるだろう。」

驚くほど多くの人が、十戒を守れば天国に行けると信じています。そのほとんどは十戒を言うことさえできませんが、聖書に書いてあるのだから、それが道に違いないと思っているのです。彼らが知らないのは、だれもこの戒めを完全に守ることはできない、ということです。神が戒めを与えられたのは、罪を明らかにするためであって（ローマ人への手紙 3:20）、救いを示すためではありません。戒めは、私たちがどれほど届いていないかを見せる、神の基準なのです。

救いは、教育、科学、哲学、心理学、物の豊かさ、自分を改めること、環境を良くすることによるのでもありません。

教育は罪人に教えますが、その人は教育を受けた罪人になるだけです。

科学は宇宙を探ることはできますが、人の内側の生き方を変えることはできません。

哲学は人の知恵です。アメリカの哲学者バートランド・ラッセルは、人生の終わりにこう言いました。「哲学は、私にとって期待はずれに終わった。」

心理学は人の行動を説明することさえできません。まして、それを変えることなどできません。

物の豊かさは、おなかを満たすことはできても、たましいを救うことはできません。

自分を改めることは、人に新しい服を着せることはできても、服の中に新しい人を入れることはできません。

だからこそイエスさまは、**あなたがたは新しく生まれなければならない**と言われたのです（ヨハネの福音書 3:7）。

天国へのただ一つの本当の道

今、神は、罪を悔い改めてイエス・キリストを主また救い主として受け入れるすべての人に、救いを無償の贈り物として差し出しておられます（使徒の働き 20:21）。この二つのことば、「悔い改める」と「信じる」について考えてみましょう。この二つは、同じコインの表と裏のようなものです。自分には救いが必要だと認めるとき、私たちは悔い改めています。神の道を受け入れるとき、私たちは信じているのです。

悔い改めるとはどういうことでしょうか。ある昔のピューリタンは、悔い改めとは「たましいが吐き出すこと」だと言いまし

た。自分の罪が恥ずべきもの、いとわしいものだから、それに嫌気がさすということです。くるりと向きを変えて、罪から離れ、神に向かうのです（イザヤ書 55:7）。

信じるとはどういうことでしょうか。それは、イエス・キリストを天国へのただ一つの望みとして受け入れることです。心からこう言うのです。「主イエスさま、私は罪人で、天国にふさわしくない者だと分かっています。でも、あなたがカルバリの十字架で私のために死んでくださり、私が受けるべき罰を負ってくださったと信じます。今、はっきりと信仰をもって、あなたを私の主、私の救い主としてお迎えします。これからはあなたのために生きていきます。」

キリストを信じるとは、罪をかかえたまま、ありのままの姿で主のもとに来ることです。ある画家が、放蕩息子の絵を描きたいと思いました。ある日、通りで一人の物ごいを見かけ、翌日アトリエに来てくれるよう約束しました。ところが、その物ごいは、こぎれいな服を着て、ひげもきれいにそってやって来ました。画家は言いました。「これでは使えません。本当の姿の物ごいのまま来てくれればよかったのに。」

信じるとは、主に戸を開くことです（ヨハネの黙示録 3:20）。いすに座るときのように、自分の全体重を主にあずけることです。

信仰は、パラシュートで飛び降りるようなものです。あの丸いナイロンの布に自分のいのちをまかせるのです。プールに飛び込むようなものでもあります。ためらうことなく、自分を水にゆだねるのです。また、特赦を受け入れることでもあります。

特赦状はただの一枚の紙です。それが効力を持つためには、受け取らなければなりません。

キリストを信じることは、人ができる一番健全で、分別のある、理にかなったことです。自分を造ってくださったお方を信じること以上に、筋の通ったことがあるでしょうか。主のうちには、主を信じることを不可能にするものは何一つありません。

主を信じることに、何の危険もありません。主はまったく信頼できるお方で、主のことばは宇宙で一番確かなものです。

次の大切な真理を決して忘れないでください。救いはお方のうちにあり、そのお方とは主イエス・キリストです（ヨハネの福音書 17:3）。主を持っているなら、あなたは神ができるかぎり完全に救われています（ヨハネの手紙第一 5:12）。

キリストは天国への道です（ヨハネの福音書 14:6）。主こそ、ただ一つの道です（使徒の働き 4:12）。神の救いにとって、大きすぎる罪などありません（ヘブル人への手紙 7:25）。

実は、あなたの罪こそが、あなたを救いにふさわしい者にするのです。キリストは、正しい人を招くためではなく、罪人を悔い改めに招くために来られました（マルコの福音書 2:17）。

あなたがふさわしくないからこそ、あなたは永遠のいのちを受ける一番の候補者なのです。天国に行くのは、それに値しないのに、神に赦していただいた罪人たちだけです。

福音の鍵となることば

ここで少し立ち止まって、キリスト教信仰の鍵となることばの一つ、「恵み」についてお話ししましょう。恵みとは、まったく反対のものを受けるべき人々に神が示してくださる、受けるに値しない好意のことです。自分で手に入れることも、稼ぐこともできません。無償の贈り物です。それを自分で手に入れよう、稼ごうとしたとたん、それは報酬になってしまいます。使徒パウロは、この違いをこう書いています。**働く者にとっては、報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものとみなされます。しかし、働きがなくても、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じる人には、その信仰が義とみなされるのです**（ローマ人への手紙 4:4-5）。別の箇所でも、パウロは恵みと行いを区別しています。**もし恵みによるのなら、もはや行いによるのではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。もし行いによるのなら、もはや恵みではありません。そうでなければ、行いが行いでなくなります**（ローマ人への手紙 11:6）。私たちを天国にふさわしい者にするのは、私たちの手柄ではなく、キリストの手柄です。ですから、天国へのふさわしさに段階はありません。イエスさまのうちにあるふさわしさ以上のものは、ないのです。

キリストを信頼しない人がいるのはなぜでしょう

筋が通らないように思えます。神は、信仰によって御子を受け入れる人に、救いを無償の贈り物として与えたいと願っておられます。それなのに人々はその招きを断ります。なぜでしょうか。いくつかの理由があります。

- とてつもない高慢のために、イエスさまを恥じるのです。キリストは彼らにこう言われます。**だれでも、このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、その人を恥じます**（マルコの福音書 8:38）。
- 家族からの激しい反発を恐れるのです。主イエスはこのことを見越して、**わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません**と言われました（マタイの福音書 10:37）。言いかえれば、キリストが第一でなければならないのです。
- キリストよりも自分の罪を愛しているのです。それは筋の通らない選択で、永遠に後悔することになります。
- 神からの誉れよりも、人からの誉れを愛しているのです（ヨハネの福音書 12:43）。
- 本来そうあるべきほど、切羽詰まっていないのです。永遠のいのちが、一番大切なことになっていないのです。
- 代価が高すぎる、多くのものをあきらめなければならない、と恐れているのです。キリストを信頼しないことの代価こそ、考えてみるべきです。
- 最後まで続けられないのではないかと恐れているのです。自分の力では、確かにできません。けれども主は、ある人の人生にみわざを始められると、その人をご自分の力強い御手でしっかりと支えてくださいます。

- 忙しすぎるのです。あるクリスチャンが一人の実業家を訪ねたとき、実業家は「何の用ですか」と尋ねました。「あなたのたましいのことと、あなたが永遠をどこで過ごすかについて、お話ししたいだけです。」「私が忙しいのが分からないのですか。」そのクリスチャンは、別れのあいさつに手を差し出しながら言いました。「もし私が死だったとしたら、どうでしょう！」

言いわけ、言いわけ、言いわけ

キリストの招きが人々に伝えられると、使い古された言いわけがいくらでも出てきます。

そのいくつかと、それへの答えをあげてみましょう。

- 「教会には偽善者がたくさんいる。」主は、ほかの人を信じなさいとは言っておられません。ご自分を信じなさいと言っておられるのです。
- 「教会はお金がほしいだけだ。」キリストはあなたのお金を求めてはおられません。あなたの信頼を求めておられるのです。
- 「福音を一度も聞いたことのない人たちはどうなるのか。」全地をさばくお方は、正しいことを行われます（創世記18:25）。今の問題は、聞いたことのない人々のことではありません。福音を聞いたあなたのことです。あなたはそれをどうしますか。
- 「なぜ神は世界にこれほど多くの悪を許しておられるのか。」キリストの贖いのみわざによって、罪がまったく入っ

てこなかった場合よりも、神にはより大きな栄光が、人にはより大きな祝福がもたらされました。

- 「クリスチャンが正しいなら、なぜこんなに少ないのか。」洪水のとき、救われたのは箱舟に入った八人だけでした。ほかの人はみな水の中で滅びました。多数派がいつも正しいとは限りません。
- 「愛の神がどうして人を地獄に送れるのか。」人は、救いの申し出を自分の意志で拒むことによって、地獄に行くことを選んでいるのです。
- 「道は一つしかないと考えるのは、心が狭いのではないか。」すでに述べたように、もし道が一つ以上あったなら、主イエスは死ぬ必要がありませんでした。もっと小さな代価で済んだのなら、なぜ主は最も大きな代価を払われたのでしょうか。
- 「簡単すぎるように思える。」救いがすべての人に開かれているためには、簡単でなければなりません。だれでも主を信じることはできますが、ほかの条件はだれもが満たせるわけではないからです。

これらは言いわけです。問題は頭にあるのではなく、意志にあるのです。イエスさまは、こう言われたとき、それをはっきりさせました。**あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしない**（ヨハネの福音書 5:40）。

また別のとき、主はエルサレムにこう言われました。**わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子ら**

を集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを望まなかった（ルカの福音書 13:34）！

決断の時

キリストはあなたを招いておられます。悔い改め、主を信じ、新しく生まれ、休みを見いだしなさい、と（マタイの福音書 11:28）。

間違えないでください。あなたはキリストの味方か、敵かのどちらかです（マタイの福音書 12:30）。もし敵なら、あなたは大量殺人者、テロリスト、強姦犯、小児性愛者、そのほかの性的に道をはずれた人々と同じ側に立つことになります。永遠をともに過ごす仲間として、とても望ましい顔ぶれとは言えませんね。

キリストを信頼して救われるべき理由

キリストの招きに「はい」と答えるべき、四つの強い理由があります。

今のあなたの幸せが、それにかかっています。

永遠のあなたの幸いが、それにかかっています。

あなたには得るものばかりで、失うものは何もありません。

何の危険もありません。

今そうすべき理由

確かだと言えるのは、今この時だけです。神は、**今は恵みの時、今は救いの日です**と言っておられます（コリント人への手

紙第二 6:2）。

いのちは不確かです。毎日、人々は起きて仕事に出かけますが、その日の夕方までに自分が神に会うことになるとは、少しも思っていません。今日も、心臓発作や事故や犯罪によって、この地球を去っていく人たちがいます。突然の死の可能性は、数えきれないほどあるのです。

主が来られる日は近づいています。イエスさまは、いつ来られてもおかしくありません。救われている人は、空中で主に会い、主とともに天の父の家に帰ります（ヨハネの福音書 14:1-3）。救われていない人は地上に残され、恐ろしいさばきの時を過ごし（マタイの福音書 24:21）、失われた永遠を迎えることになります（ヨハネの黙示録 20:14-15）。

あなたはもう何年も、主を戸の外に立たせたままにしてきました。ほかの人にはそんなことはしないでしょう。なぜあなたの神にそんなことをするのですか。主をお入れしてください。

神は、すべてのひざがイエスさまの前にかがみ、すべての舌がイエスさまを主と告白するという、変わることのない定めを立てておられます（ピリピ人への手紙 2:10-11）。あとで無理やりそうさせられて永遠に失われるよりも、今、自分からそうして救われるほうが、ずっと良いのです。

今は、これまでで一番遅い時です。ある男の子が、おばあさんの家の大きな柱時計が時を打つたびに、その鐘の数を数えていました。ある日、時計が壊れて、十三、十四、十五回と鳴りました。男の子は台所に駆け込んで言いました。「おばあちゃ

ん、おばあちゃん、今までで一番遅い時間になっちゃったよ！」 チャンスの日は、もうほとんど終わりかけています。

いつの日か、あなたは神の前に立ちます。そのとき問われるのは、「あなたはわたしの子をどうしたのか」ということです。あなたの最後の行き先は、その答えにかかっています。**御子を信じる者は永遠のいのちを持っている。しかし、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる**（ヨハネの福音書 3:36）。

どうしたら確信できますか？

罪を悔い改めて、主イエスを罪からの救い主として信頼したなら、救いの確信にしっかりと根ざすことが大切です。自分は今救われていると、どうしたら心から確信できるのでしょうか。

第一の方法は、神のことばによってです。聖書はこう言っています。**もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われる**（ローマ人への手紙 10:9）。あなたがイエスさまを、疑いのない主また救い主として信じたその瞬間から、神は、あなたは救われていると言われます。神は偽ることも、欺くことも、欺かれることもありません。神がそう言われるなら、それは真実です。

救いのほかのしるしは、その後の日々に現れてきます。罪を新たに憎むようになり（ローマ人への手紙 7:24）、きよさを新たに愛するようになります（ローマ人への手紙 7:22）。まだ罪を犯してしまうことはあっても、罪を習慣として行い続けること

はありません（ヨハネの手紙第一 3:9）。罪があなたを支配することはありません（ローマ人への手紙 6:14）。神の子どもたちを愛するようになります（ヨハネの手紙第一 3:14）。信仰にとどまり続けます（ヨハネの手紙第一 2:19）。

劇的な回心を経験する人もいます。罪の重荷から解き放たれて、喜びに満たされるのです。ほかの人にとっては、外に何のしるしも華やかさもなく、ただ静かに神の贈り物を受け取るだけかもしれません。どちらの場合も、救いの確信を感情の上に置くべきではありません。感情は変わりやすく、あてにならないからです。もしキリストだけがあなたの天国への望みなら、感じても感じなくても、あなたは救われています。事実は感情にまさるのです。

これからどうするのか

バプテスマ。 救われたあなたは、バプテスマを受けて主に従いたいと思うでしょう。バプテスマは救いのために必要なものではありませんが、従うために必要なものです（マタイの福音書 28:19）。バプテスマによって、あなたはキリストを自分の主、救い主として、人々の前で忠誠を誓います。主の死と葬りと復活に、自分を重ね合わせるのです（ローマ人への手紙 6:3-5）。主があなたの代表として死なれたので、あなたも主とともに死んだのです。バプテスマはまた、新しいいのちに歩むという約束でもあります（ローマ人への手紙 6:4）。それは、罪に対して死んだ者として、バプテスマを受けた者らしく生きるということです。

クリスチャン生活には、ほかにも大切な歩みがあります。

告白。 自分の罪に気づいたら、すぐにそれを直接神に告白することを学びましょう。そうすれば、赦しを受けます（ヨハネの手紙第一 1:9）。キリストを信頼したとき、あなたは審判者である神から、罪の刑罰についての赦しを受けました。今は、あなたの父である神から、親としての赦しを受けるのです。

献身。 毎日、自分のからだを、神に受け入れられる生きたささげ物としてささげることから始めましょう（ローマ人への手紙 12:1-2）。これは、自分の思いを神のみこころと取りかえるということです。

聖書。 クリスチャンとして成長するには、聖書を読み、学び、暗記し、思いめぐらさなければなりません。こうして、神があなたに語りかけるのを聞くのです。

祈り。 祈りの中で、あなたは天の父に語りかけます。決まった時に祈ることも、何か特別なことがあるたびに祈ることも、良いことです。

地域の教会。 できるだけ早く、聖書を信じる教会、つまり聖書を誤りのない神のことばとして受け入れている教会に加わりましょう。新約聖書の教会とは、聖徒たち、長老たち、執事たちから成り（ピリピ人への手紙 1:1）、使徒たちの教え（聖書の教え）、交わり、パンを裂くこと、祈りのために集まる教会です（使徒の働き 2:42）。主が選ばれる教会へ導いてくださるよう、主にお願いしましょう。

あかし。 主のためにあかしする機会を与えてくださるよう、主にお願いしましょう。救われていない家族、近所の人、友人、知り合いに、福音を伝えることです。

最後にひとこと

もしあなたがここまで読んで、まだ救われていないなら、最後に愛をこめてお願いします。ありのままの姿でキリストのもとに来てください。主が十字架であなたのために死んでくださったと信じ、主をあなたの主、救い主、そして天国に入るあなたのただ一つの資格として受け入れてください。そして、主の約束を自分のものとしてください。**もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるのです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです**（ローマ人への手紙 10:9-10）。

✦

神に栄光がありますように。